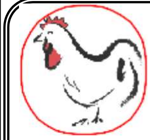
とんかりん

サカタニ友の会ニュース



新年明けましておめでとうございます

旧年中はご愛顧お引きを賜わり
誠に有難うございました
本年も何卒よろしくお願いします

平成二十九年一月一日

株式会社 サカタニ　集酉楽サカタ二
ファミリーマート・サカタ二京阪七条店

代表取締役　酒谷義郎
取締役　酒谷宏之
取締役　酒谷香也子
集酉楽部門役員　酒谷宗男

去年の漢字 金 金・金・

日本漢字能力検定協会（公益財団法人）が、1995年から、その年をイメージする漢字の一字を全国公募し、最も多い字を、その年の世相を表す漢字として発表している。今年も「漢字の日」12月12日に、2016年の漢字」は、「金」に決定したと発表。そして慣例になっている清水寺森清範（せいはん）貫主の揮毫（きごう）が行われた。

私は応募しないが、毎年「字」考えて見た。今年はオリッピク選手の活躍も有り「金」も浮かんだが、既に一度も有ったので、前号「とんからりん」で、「トランプと百人一首」の文を書いたことから、米大統領選挙も有ったので、今年は「米」かなあと思っていたが外れた。

そう言えば「金」は相場があるが、米相場は無い（?）様だ。前戦争時代や戦後の混乱期、ダイヤモンドより、「お米」の方が値打ちがあった。食事の際、お茶碗にご飯粒を残すと祖母に「お眼めが潰れる拾ってお食べ！」と叱られた。

その我が今は**月月火水木金金**のコンビニが主たる事業。「弁当・おにぎり」等を賞味時間前に売場から引上げ「廃棄」している。それでも眼は潰れないが、食べられるのに「勿体ないなぁ」と思う。

金属の**金**は無くても生きられるが、頭に「**お**」が付いた「お**金**」が無いと、生きられない今の人間世界。人間が創って人間が困る、鵺（ぬえ）の様な「お金」、私の「一番幼い頃の記憶は五歳頃?」。南北

参考・日本の金保有は3765トン（世界中2.1％）

発行者
株式会社サカタニ
集酉楽サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993　京・東山区七条こころ坂
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
Eメールinfo@sosake.
月刊 発行会員新聞
編集酒谷義郎
yosirou@sosake.jp

第3日曜日開催日12月18日（定例:朝9時）
第142回:朝粥食べておシャベリ会
講演:河野直揮様（報告者）高木英智様

本日のご講師は京都タワーの統括支配人の河野直揮さん

テーマは:京都タワーの歴史と魅力について

京都タワーの計画は郵便局（写真下）の移転に伴う跡地利用から浮上。京都駅前という重要性から京都市の財界が結集して新会社設立。伝統ある古都の町にタワーなんてと激しい反対運動も今は昔。今では「古き伝統」と「伸びゆく京都の将来」を現すシンボルとしてなくてはならない存在に。

イメージキャラクターの「たわわちゃん」、**フラリーパッド**の公式PRソング「**京都タワーにのぼって**」、地下1階から2階までをリニューアルして新しい商業施設へなど次々と新しい施策も。京都タワーの色は東海道新幹線と同じミルキーホワイトだとか、タッチパネル式の観光案内モニター、たわわちゃん神社、ろうそくだと思っている人が多いが、公式見解は灯台だとか、昔、お化け屋敷があったとか、五山の送り火がすべて見られるとか、最近の事例では、タワーのカラーライト購入権第一号のお客さんは酒谷宗男さんだったとか、たくさんの「へぇ～～」を教えていただきました。

京都駅前は京都観光に来た人が最初に目にする風景ということで、京都タワーが持つ大切な役割と同時にプレッシャーでもあることが河野さんのお話から伝わってきました。

地震にも台風にもびくともしない堅牢な構造の京都タワー。普段は見て安心の存在ですが、一度、登って、京都の街並みを眺め、京都のよさを再認識されてみてはいかがでしょうか。

バクチで栄えた国はない

この見出しは、冊子「うずみ火」から借用。その冊子は、**ジャーナリスト**で、ご活躍なさった亡き**黒田清氏**創刊。没後の今も引継がれている。私は創刊当時からの読者である。

さて「カジノ自由化」を目指す「IR実施法」が12月15日成立。12月26日に公布され即日施行された。

これを受けて、ギャンブル依存症対策への取り組みをスタートした政府は、本日から一年以内を目途に、「IR実施法案」を策定し、国会に提出する予定だとか。平く言えば、『**カジノ**』毒性を承知の上、予め「頓服」を用意してまっせ、ご安心を！と言う法律と思う。

我が子が、毒性に物を口にしそうな時。直ぐに「食べたらアカン」と取り上げるのが親の役目。飲んでから、薬を用意する親」は普通ではあるまい。更に驚くのは、府県の対応だ。①北海道。②秋田県③東京④千葉⑤神奈川⑥静岡県⑦愛知県⑧石川県⑨三重県⑩滋賀県⑪大阪府⑫和歌山県⑬徳島県⑭香川県⑮福岡県⑯大分県⑰長崎県⑱宮崎県⑲沖縄県が　カジノ誘致を考えているとか。**ナンタルコッチャ！**。

そして政府は、年明け内閣官房に、仮称依存症等対策室（**カジノ博打ギャンブル**）を創るとか?。今、日本の公営公認ギャンブルは、パチンコ20兆・競馬3兆競輪8千億円・競艇オートレース9千億円。宝くじもを加えると合計**26兆~30兆**の規模。そこへ「カジノ」が加わるのだ。人口割りにすれば、虚業収入率は、世界では金銀メタル級だろう。今迄は、実業で**コツコツ**と汗水を流して栄えてきた日本国だ。虚業（バクチ）を頼りにする必要は更々ない。

「虚（うたかた）」は万葉集に残しても実世界では「露」と消え、マタ消したいものだ。

どんつき

▽このコラム「どんつき」は「突当たり」の京都弁?。ドンと突きあたり前に進めない場所をさす言葉だ。

▼この市電の後方に「ドンツキ」の靴屋さんの看板が見える。今と違い河原町通が塩小路に突当たり先が狭くなり「ドンツキ」状態になっていた。

写真は、亡き友人高橋宏さん撮影のもの

▽それで、其処にある靴屋さんが「ドンツキ」を屋号になさった。。京都人なら「河原町のドンツキ」で直ぐに店の場所が判る。お上手な手。

▼写真右の建物は**柳原銀行**。1899年（明32）に、柳原町長経験者明石民蔵氏等によって設立。後の通り拡張時、東九条に移築され、今も保存されている。

▽近くに長く住み商売をして来た私。今まで幾度もの危機でドンツキ状態を経験した。が、歩み続け、何時も救われ今がある。「**どんつき**」でも諦め無かった成果だとこのコラム題にした。

▼我が国も、玉砕、空爆、原爆を経て、敗戦と言う「ドンツキ」を経験。それに懲り反省で、平和憲法を手にし、経済的に豊かになった。が、「喉元過ぎれば」状態で全が、パーになりそう。

▽日本を「ドンツキ」に導いた遺伝子を持つお方が運転手になり、真直ぐな「安全平和」通りから急に右にハンドル。ドンツキ崖方向に進もうとしている。血は水より濃いと言う怖い怖い！大怖い。

▼オマケニ、阿呆が東京湾にバクチ場をとか。此処は日本モナコや無いで！・

ヨシィちゃんのひとりごと改め・なんだ坂こんな坂①

に奥深い町屋の南の大きな土蔵の二階奥座敷で、病で臥せっていた時(現・楽々ホール位置) そのガラス窓のガタガタ音で目が覚め、傍に居た祖母に、「何の音」と尋ねた。「アッ気が付いたか！」嬉しそうな顔、そして祖父が「火薬庫爆発の音や」と言い、続けて「今度は枚方やけど、前は木幡火薬庫(注)が「赤」にやられたそうや、今度も「赤」どっしゃろか？」と、往診が終り手洗い中の、お医者さんに話しかけ、「赤は、怖い、何をするや判らん」と言っていた。そして「そぅや！義郎、隣の※志摩看板店の子とは、遊んだらアカン！」。この間、お父さんがアカで警察の捕まらはったからと言った。逮捕は、七条通に面した自店宣伝看板に、日支戦闘機空中戦で、日本空軍機が被弾、燃え落下する絵が原因だとか。軍の気に触れたのだろう。逮捕数日後、「家は引越しされ空家、祖父が購入、古家屋を取壊し建替え、表側を酒場(戦時中、国民酒場)にし、当時番頭の新吉とん夫婦」(本名ではない)に任せた。が、彼は戦死、後、祖母「きぬ」が仕切った。私は、常盤幼稚園(東本願寺系)1940年貞教尋常小学校入学(昭15)。その入園入学も付添いは祖母。友達はお母さんなのに、何んで僕には父さん母さんが居ないのかなぁ?」と不思議に思っていた。二年生の正月過ぎ。祖母が仏壇前に私を座らせ「病気で里へ帰ってたお母さんが戻ってきやはる」と言う。ホナお父さんは？」と聞くと、私が番頭だと思って「メンメさん」やと言い、これからは、メンメさんは止め、お父さんと呼びなはい」と付け加えた。ヤッパリ両親が有ったんや！と飛び上るほど嬉しかった。数日後、丁稚の政はん」が、母の家へ連れて呉れた。その庭先縁側で生れて始めて「母」と会った。「義ちゃん、私の病気で淋しい目指して堪忍してや」と言はれ、着物姿の「母に」夢中で飛びつきお母さんに抱き付いた。お婆ぁちゃんとは、違がう良い匂いがした。3年生の参観日に来た母は若く、友人等の母より一際、美しかった。

(私は16歳迄は、実の母だと思っていた)

前列・祖父喜一郎・義母・父一郎・私・祖母きぬ・後列。義母の母※番頭新吉・手伝い房子嬢

㉕ぶらり散策記・稲荷山

越智薫

2017年も伏見稲荷大社は初もうで客で大賑わい。多くの願いを込めての参拝です。

日頃の伏見稲荷大社と違って、さすが外人客は少なく、圧倒的に日本人である。お正月であるから、参拝記念はお守りであったりするが、稲荷名物もお土産に買って帰る人も多い。

土産に買うこの名物がくせ者である。国語辞典によると、名物とは、有名なもの。すぐれたもの」「その土地特有の名高い産物」とある。そうなると、稲荷名物は、本町通の伏見人形(写真)」、裏参道の店先に並ぶ神器」、「稲荷せんべい」、本町通の小西の焼き芋」などであろう。20数年前までは、有名な稲荷ういろう」もあったがその店は今はない。

ところが、最近「名物・・・」とノボリを掲げたインチキ臭い店が何軒か出店している。誰が見ても名物」とは思えない。法律違反でもないから咎めることもできないだろう。

先ほどの辞典とは全く逆の、名物にうまいもの無し」ということわざがある。私は最近出店の店はこの類に入るような気がしてならない。

前段に挙げた店は、歴史もあり商品価値も高い。それぞれ味わい深いものがある。手作り・もの作りの町である京都には多くの名物・名産がある。目立たないがそれぞれの地域にある名物は守っていくべきであろう。それには個人の努力も必要だが地域力も発揮しなければならないだろう。後継者がいないということで無くなっていくのは惜しい限りである。

私は目先のきいた大量生産・大量消費の店には付いていけない。

正月早々に嫌なことを書が、酉年生まれの人の性格は、次のように言われている。

「酉(とり)年生まれの性格は、理解力に優れ、先を見抜く直感を持っています。そのため、ピンチが続くと諦めが速く、必要以上の苦労を避ける傾向があります。どちらかと言うと、楽な方楽な方へと選択していきます。酉(とり)年生まれの人は、チャンスが来ても汗を流さず利益を得ようとする面があり、他力本願で、じっくり仕事に精を出すことは苦手です。」

これはネットの情報をコピーしただけです。関係者には気にしていただくことではありませんが、とにかく今年も、日本経済もバブル傾向も言われている。本物志向でいきたいもの。

かるたの心

石動敬子

犬も歩けば棒に当たる

江戸いろはがるたの中で、今最も親しく思い起こされる一枚である。5円玉を握りしめて町の雑貨屋に立ち、ざら半紙一面に印刷された絵札と読み札を買った。親が買い与えたものなどではなく、懇願して。達磨ばさみで、チョキチョキ切って、札にするが早いか妹や弟の前に並べ、かるた会が始まるのだった。

小学校高学年になった頃か、茶の間の火鉢の絵柄に　からくれないにみつくくるとは」　わかみよにふるなかめせしまに」のような読み札が現れ、驚いた。なに？と聞いてはいけない気がした。東北の片田舎では、テレビがやっと普及し出したとはいえ、それはまるで、別世界の暗号のように思えたから。両親も祖父母も果たして答えられただろうか。

百人一首というかるたのこと。それを知ったのは、なんと数年後、高校一年の正月、所属していた地学部の新年会を顧問のU先生宅でやった時だった。　かるたしようか」の声に　やろうやろう」と真っ先に応えたのだったが、畳の上に広げられた札はおよそ見たこともないものだった。そのときの衝撃。高２で、級友のお弁当にスパゲッティが入っているのに驚いた時に似ている。仙台という憧れの都会に下宿しての女子高生活もそんな驚きに満ちていたから、3畳間の足温器だけの寒さも辛抱できた。

珍しくプールのある高校だったから、夏期講座の午後の数学はやめにして、ひたすらプールで泳いだ。そして、数学への憧れを絶ち、かるた以来の古典文学へとかじを切ったのだった。それからのことは、まっすぐ今に通じる。

そうだ京都に行こう」と千里の道を遠しとせず、開通間もない新幹線でたどり着いたのだった。

京都先斗町に降る雪は」どう違うのか、いや、　わかころもてにゆきはふりつつ」の雪はどんなか、と。

恥や失敗からスタートしては憧れに変えてきたような半生だったが、京都にはあらゆる良いものがあり、またその逆も幾分ありそうだ。でも、「いけず」は文化かもしれないとも思う。されるれる自分が試されているのだ。温度差もあるから、見ぬふりも無関心を装うのも文化のうち。嬉しいことに、テレビで見る人たち以上のさすがというレベルの人もこの地には少なくないと知る昨今だ。千年の都が育てた地上の星というか。こんな人がいてくれる、という良質な庶民の数々。

で、犬も歩けば棒に当たる、である。出歩けば災いも避けがたかろう。でもこの街には降りみ降らずみの時雨文化」が育てた、とびっきりのものがあり人がいてくれる。会いたくて出かける。それが、このかるたの心だろうから。

京都&東山ぶらりピカリ 72

七条通（しちじょうとおり）⑱ 地味だが京都の通り

前号は、東大路近辺を書き。今号もその近辺をと思っていたが、どちらかと言えば地味な七条通にJR山陰線新駅が出来るニュースと、既に工事前の作業が始りだしので嬉しくて急遽変更した。

その「駅名」は、マダ決まっていないだろうが、松本清張風に考えると「点」なら「梅小路」そして「線」なら「七条」の何方かになるのだろうと思う。新駅の次駅は「二条駅」だからバランス的に「七条駅」が一番好ましいと思うし、元々今の京都駅を、祖父達の時代は、「七条ステーション」の名で呼んでいたし「駅名」そないに小さい名では、あらしまへんえ。

東のドンツキの智積院から始まって、土木学会選奨土木遺産に指定されている「七条大橋」、更に東西の本願寺や興正寺もある「通り」だが、何故か「七条」は、余り人気が無い様に思え、**僻んできた！**。

ネットでも「京都一の繁華街四条や、牛若丸の五条とは異なり、五条を超え南下すると一気に雰囲気が変わるとのコメントも有って。

鴨川に架かる橋でも七条大橋と同時期に出来た四条大橋とは双子の様に相似した「姿」だった。前の戦時中「欄干と照明塔」が金属供出で撤去され、木製になった。戦後、四条は、早く金属制になったが、七条は10年以上遅れたし形状も元と違った。

何デヤネン！と調べると、鴨川川原の七条辺りは、平安末期より、刑場（**首切場**）だった。それも、位の高い偉い人は、京都御所に近い三条辺りで、低い輩は六・七条川原だった様だ。その様な風習を表す**北尊南卑**の言葉は、今も有るように思える。

橋は、一架橋以来一度も流されず毀れず流さず、東西交通を護った**唯一**の橋。頑丈な理由は、明治44年（1911）伏見に**大日本帝国陸軍第16師団の設置**に伴い、京都市街から伏見に至る師団街道が出来、七条で、**旧京都市内に入る**「師団街道」を兼ねていたから。子供の頃、橋の近くで、私も「日の丸の小旗」を振って、汗臭い「兵隊さん」の行進（写真）や、橋を渡る戦車も見た。

余談だが，同じ理由で九条通りも、日赤の前から陸橋高橋で京阪電車と鴨川を越えている。

（注）当時の陸軍16師団司令部は、現在は、華やかな「聖母学園」に大変身しているが一部には

七条通を跨ぐで高架新駅イメージ画

七条通を高架で渡るJR山陰線

市電が走った京都を巡る 71

福田静二

下鴨東本町を出発した北大路線の市電は、高野方面に進みます。

商店や小規模なビルが建ち並んだ街並みが続きますが、大きなマンションが出現し始めたのも市電末期の時代でした。ちょうど昭和五十三年の市電の最終日のことでした。

秋の日差しが北大路通を照らし出しています。これを見て、とっさに近くにあった大きなマンションの屋上に上りました。今では、オートロック式で、部外者が勝手に入ることはできませんが、当時は出入り自由で、しかも屋上にも鍵が掛かっていません。撮影者にとっては好都合な、おおらかな時代でした。上から見ると、北大路通が陽に照らされて、キラキラ輝いています。

東側を見ると、比叡山が雄大な姿で目前に迫っています。そのなかを、最後の活躍をする市電が二両、三両と、走る姿を見ることができました。最終日の忘れがたいシーンでした。

そのマンションの建つのが、つぎの停留場「下鴨高木町」です。

このマンションは、下鴨で最初の八階建ての高層住宅で、建築中に景観論争が持ち上がったそうです。向かい側には、いまの京都生協のもととなった下鴨生協の組合センター（界隈のお買い物の中心ともなりました。）。いまも京都コープの店となって、盛業中です。

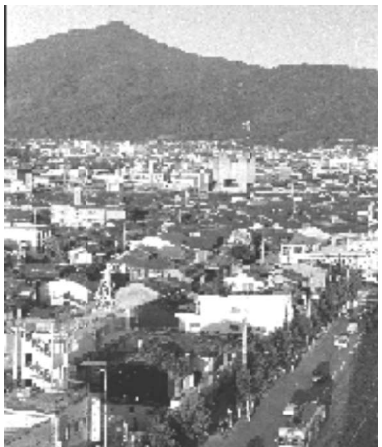
この下鴨高木町は、京都市電の最北端に当たります。概念としては、北大路通と東大路通が交差する、二つ先の高野が、東北端のように感じますが、下鴨高木町からは、北大路通が、やや東南方向（斜めに走るため、高木町が最北端となるのです。北大路通が斜めになっているためか、この停留場は五差路になっています。北（斜めに向かう道は昔からの道、まっすぐ北（行く道は、新しくできた松ケ崎道です。

その道から見ると、こんもりした山が正面に見えます。山腹には“妙”と“法”の火床が、そう、八月十六日の五山の送り火で「妙法」が点火される松ケ崎山なのです。西山、東山に分かれ、西山は“妙”、東山は“法”で、同時に点火されます。

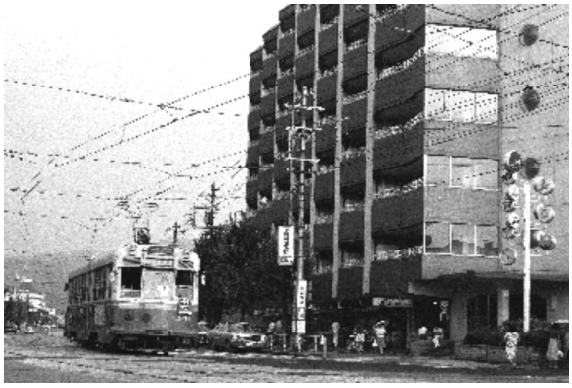
送り火は仏教の行事として、一般に行われるようになったのは、仏教が庶民の間に浸透した中世ごろといわれています。鎌倉末期、日蓮聖人の孫弟子である日像上人が、村人に法華経を説き、一村をあげて日蓮宗に入りました。

そのとき日像上人が西山に“妙”を書いたと伝えられています。また東山の“法”は、それより遅れ江戸時代に日良上人が書いたと伝えられています。妙法の左読みについては、妙の字が松ケ崎の西端にあったため、法の字は東に書くしかなかったためと言われています。

京都七福神の第一番の札所、大黒さんを祀る妙円寺が東山の中腹にあり、西山には、湧泉寺があって、それぞれの檀家が火床を守っています。送り火「妙法」は、お盆の精霊送りの聖火であり、松ケ崎の人たちの心意気を感じます。



比叡山を見て北大路通を行く



下鴨高木町に着いた市電

何んだ坂こんな坂 序

この欄は、昨年まで百十三回『酒屋に生きて生かされて』を書き続けて来た欄。が、新年号の今号から何だ坂こんな坂」に「コラム題」を変更いたしました。20才～82才の62年、酒に関わる卸・小売(飲食店うどん屋。酒場)CVS」も含めて、その間、多くの方々のご支援を頂戴して来ました。が、そろそろ、今までの生き生かされた自分の整理して書かこうかなぁの気持ちになりました。

商売でも、色々な経験をいたしましたが、人様が余り経験されない事、私事も含めもうアカン！と覚悟をした事が幾度もありました。が、何故か、いつも思ってもいない救いの手が指し出されたのです。(それは、私の誕生時も)以前は、偶然や！と余り気にしなかったのですが、歳を重ね八十路、最近、何か目の見得ない力が働いていると思うようになりました。

が、去年は悪い年で、実の弟より長く70年余、戦友の様な友(河内屋の康ちゃん)と尋常小学校入学時からの親友、㈱榮さんが亡くなったのです。これには参りました。が、何時かは、会いに行くから呼びに来るなと厳命をしてあります。(元日に念を押します)。

古い読者の方はご存知かもですが、祖母が没後、遺品の中から、生年月日と名前を「記入」した、私の臍の緒箱が見つかりました。それには、名は「喜郎」生年月日は、誕生日は戸籍より丸一ヶ月早い日でした。恐らく父一郎16歳(当時京都第一商業学校四年生)母14歳の若さなの、祖父母の子として戸籍届を心算だったのでしょう。実母は、祖父の懇意な九人も子供がある「S酒店」の長女。口減らしで、わが店に住込みのお手伝い役で居たのです。(生誕地伏見藤森の祖父知人宅)生母は実家へ、父は、大阪の酒屋に2年程勤めた。

その間、私は祖父母に育てられ、夜は、祖母の蒲団でと寝た。寝入りまでの時間に、色々なお話をして呉れた。自分が経験した「京地震」や「馬関戦争」の話。ギッチョ(左効き)を嗜めれ右利きになった。(祖母は、幼児教育の天才のだった思う)

研究者と文字
月三天

文字を丁寧に書く人に出会った。

行きつけの喫茶店で相席になった人は、パリッとしたスーツのわりにはくたびれた雰囲気の、四十代くらいの男性だ。私が入店した時は店がいっぱいで、快く相席を受け入れてくれた。

どうぞ。よくこちらを？」

「月に一度くらい利用しています。たまに、社食以外のものを食べたくなってしまって」

まさに僕も、その衝動にかられて今日ここに来たんです。いつも通り過ぎるとき、気になっていて」

「それは災難。いつもは二、三組なんですが」

「やいいんです。賑やかな方が人の中にいる感じがして。僕にとっては丁度いい」

「そうなんですか」

ええ。日々遮断された環境にいると、たまに人恋しくなりまして」

研究者か何かですか？」

まさに。研究者です」

研究室に何人かいらっしゃるイメージがあるのですが」

色んな形態があるのです」

店員に昼食を注文した後、食事をしながら趣味についても話をした。意外にも話が弾み、時間はあっと言う間に過ぎた。

お休みはいつですか？僕は週に一回は外に出ることにしているのです」

あ、私の会社は週二回の自由休日なので合わせますよ」

では、木曜日のここのオープンに」

分かりました」

彼は背広のポケットから付箋を取り出し、何やら文字を書いていく。そのペン先に目が留まってしまった。一文字、一文字、時間をかけて、丁寧に。なんだろうこの感覚は、何か大切なものを生み出している瞬間に、運良く立ち会っている気分だ。

これを。すみませんがご連絡をお願いします」

手渡されたのは、丁寧で均整のとれたメールアドレスだ。その一文字一文字が生み出されている所を見ていたためか、宝物を受け取った気分になる。

ありがとうございます」

時計を見ると、もう直ぐ一時間だ。

では、木曜日に。今日は助かりました」

こちらこそ、趣味の話ができて楽しかったです」

彼と出会ったその日から、私の字も丁寧になった。

ハイ・ファイブ
纐纈史子 FuMiko Kouketu

2017年が始まりました。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。2016年は世界的に変化の多い一年だったように思います。社会情勢的にも様々な改革が起こり、世界全体が変化を求めて動いた一年だったのではないでしょうか。

七条出身のウクレレとギターのアコースティックデュオ、フラリーパッドにとっても、大きな変化のあった一年でした。今まで展開してきた歌のないポップス」という音楽スタイルから、歌詞のある楽曲制作へと取り組みを変え、アコースティック・ポップス」というボーカルの入った音楽スタイルで再出発をさせていただきました。

きっかけは、京都のシンボルである京都タワーの公式PRソングに、フラリーパッドの楽曲が起用されたことでした。六年ほど前に作った、京都タワーを勝手に」宣伝する楽曲を、サカタニさんのご紹介で、ついに京都タワーの耳に届けることができ、そのご縁で正式に京都タワーのPRソングに採用していただきました。

生まれ故郷京都をテーマにした曲作りは、歌のない」音楽でも取り組んできましたが、歌詞」という具体的な描写をもった曲は、より広い層の方々に受け入れていただき、今までとは違った広がりをフラリーパッドにもたらしました。

一つのご縁は、また違ったご縁へと紡がれていき、歌のある音楽に移行したフラリーパッドに、新たな道が次々と開き出しています。歌という新たな表現方法は、大きな力となってフラリーパッドの背中を押し始めています。2017年のフラリーパッドは、さらなる可能性を求めて、チャレンジし続ける一年となる予感がします。

一年後には、デビュー十周年を迎えるフラリーパッド。その序章となる今年は、エネルギーの充電と放出を繰り返しながら、大きく大きく成長していくでしょう。迎えくる十周年に、勝利のハイ・ファイブを高らかに交わすために…紅葉もすっかり終わりを迎え、街にはクリスマス・イルミネーションが輝く時期になりました。

仕事柄、前をみて走り続けてばかりの私ですが、

編集後記

▽70年を越えて平和なお正月が来た。私、昔風に言うと84才になる。93歳まで生きた生母の遺伝子を貰ったのか明治以後の親族中で一番に長生きしている。▼その上「運」が良い私。今号から『なんだ坂こんな坂』書くが、人生岐路で、何時も選んだ方が良い。中でも最高は、お読みくださっている貴方様との出会い。▽スタートは戸籍届けから、祖母没後、祖父喜一郎の字「喜郎」と記した私の臍の緒」を発見。若過ぎた両親の子でなく。自分の子で届け心算だったと推察。▼一ヶ月遅れた「戸籍届け」は、実父一郎の子で義郎になっていた。終戦直後、祖父は没し、当時の旧々の相続法で長男の父が全部を続した。▽その父が死亡。相続人は、配偶者の後々妻とその子。弟一名妹二人と私が相続人。時間は随分要したが掛かったが、私の提案通りで円満終了？した。▼一年後、だったら相続法が改定されていて大変な事だったろう。恐らく店は今と大違いな形、私も、全く違った方の進んでいただろう。▽今号から酒屋で生きて生かされて」を『なんだ坂こんな坂』にコラム題を代えた。その題では、書ききれない、面白く・悲しく・嫌な、嬉しい経験をして来た。▼何方かと言えば、嫌な方が多いかった。それを越えるのに、自分が、良いと思う道を見つけ進むしかない。ふと東海道線を上る貨物列車の音を思い出した。▽『なんだ坂！こんな坂！』と叫び東山トンネルへ向かう姿に自分を重ねた。嫌な場面では「嚢郎は強い、負けるもんか！」と自分を自分で励ます。心中で**なんだ坂こんな坂**叫びつつ。